



## 県内事業者の円滑な価格適正化と賃上げの実現に向け 鳥取県『円滑な価格適正化の実現に向けた共同宣言』を実施

### 円滑な価格適正化の実現に向けた共同宣言

一般社団法人鳥取県経営者協会、鳥取県商工会議所連合会、鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会、一般社団法人鳥取県トラック協会、日本労働組合総連合会鳥取県連合会、一般社団法人鳥取県銀行協会、鳥取県信用金庫協会、公益財団法人鳥取県産業振興機構、経済産業省中国経済産業局、厚生労働省鳥取労働局、国土交通省中国運輸局鳥取運輸支局及び鳥取県は、相互に連携の下、円滑な価格適正化と賃上げの実現に向け、次の通り宣言する。

#### 1. 目的

この共同宣言は、サプライチェーン全体での共存共栄、付加価値の向上を図るため、相互に連携及び協力を行い、労働費・原材料費・エネルギーコスト等の上昇分を適切に価格に反映することについて気運の醸成を促し、もって県内中小企業・小規模事業者の稼ぐ力を高め賃金の引き上げを促すことにより、成長と分配の好循環を生み出し、地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

#### 2. 連携及び実施

この共同宣言の目的を達成するため、次に掲げる項目について、各機関所掌の範囲で相互に連携し、実施する。

- (1) 価格適正化の状況に関する情報収集と発信  
ア) 県内企業への聞き取り調査等を通じた情報収集  
イ) 情報収集結果の共有と発信
- (2) 価格適正化や賃上げに関する支援情報等の周知  
ア) 価格適正化や賃上げに関する支援策、各種情報等の共有  
イ) ウェブサイト、講習会・セミナー等を活用した県内企業への周知
- (3) 価格適正化・賃上げを推進する取組の促進  
ア) パートナーシップ構築宣言及びホワイト物流推進運動の県内外企業への周知による認知度向上  
イ) 取組を進める企業に対する支援策の検討
- (4) その他、この共同宣言の目的を達成するために必要な事項

令和5年5月18日

一般社団法人鳥取県経営者協会	会長 宮崎 正彦
鳥取県商工会議所連合会	会長 児嶋 祥悟
鳥取県商工会連合会	会長 土井 一朗
鳥取県中小企業団体中央会	会長 谷口 謙二
一般社団法人鳥取県トラック協会	会長 川上 和人
日本労働組合総連合会鳥取県連合会	会長 田中 穂
一般社団法人鳥取県銀行協会	会長 石丸 文男
鳥取県信用金庫協会	会長 笠見 和則
公益財団法人鳥取県産業振興機構	代表理事 岡村 整路
経済産業省	中国経済産業局長 青木 朋人
厚生労働省	鳥取労働局長 平川 雅浩
国土交通省	中国運輸局鳥取運輸支局長 西山 龍司
鳥取県	鳥取県知事 平井 伸治



連合鳥取 田中穂会長(前列右)

5月18日(木)、とりぎん文化会館において、経営者団体・行政関係・金融関係・連合鳥取など関係13機関の代表者参加のもと、「円滑な価格適正化の実現に向けた共同宣言式」を行いました。

この共同宣言は、エネルギー・原材料などの物価高騰分を取引価格へ反映することが困難な中小・小規模事業者の現状があることから、価格適正化や賃上げによる経済の好循環に向け、産官金労が一体となって気運醸成を図ることを目的としています。

鳥取県の平井伸治知事は、「鳥取県の雇用・産業の活力を引き出すため、関係団体のみならず情報共有・横展開を図り、好循環に向け、安定した暮らし・経済の成長につなげていきたい」とあいさつ

また、連合鳥取の田中穂会長は、「鳥取県の経済を活性化させるためには、円滑な価格適正化による取引を進め、中小企業の業績回復・安定化を図る必要があること、そしてそのことにより県内中小企業・小規模事業者が賃上げできる環境を整え、人材確保や競争力の強化につなげたい」との思いがあり、連合鳥取としても、地域経済の活性化に向け、最大限の取り組みを行う」との決意を表明しました。



宣言の採択と代表6団体の取組表明の様子

# 世界の平和のために私たちは何をすべきか

## —「平和に関する現地学習会(知覧特攻平和会館)」で学ぶ—

5月19日(金)、20日(土)、連合鳥取執行委員と職員19人が鹿児島県南九州市知覧町に出向き、「知覧特攻平和会館」の見学と知覧飛行場跡地戦争遺跡のフィールドワークを行いました。

知覧町は、太平洋戦争中に陸軍の知覧飛行場があり、当時は沖縄戦の特攻隊の出撃地となっていました。

平和会館には、特攻隊が使用した戦闘機をはじめ、特攻に関する様々な資料と、特攻作戦で戦死された方々の遺影、遺書、遺品などが保存、展示されています。

フィールドワークでは、ボランティアガイドの山口禎男さん(写真上)が案内をされ、特攻隊員達が出撃までの数日間を過ごした三角兵舎(復元)や、特攻平和観音堂、給水塔、防火水槽などを巡りました。

また、1993年9月、学徒動員と特攻隊の悲哀をテーマとした映画「月光の夏」が、映画月光の夏鳥取県実行委員会により、県内3会場で自主上映されました。連合鳥取もこの実行委員会に、「平和のつどい」の取り組みとして参画していました。

この時の収益金で寄進された石灯籠も特攻平和観音堂近くで確認することができました。

◆参加者から寄せられた感想(一部抜粋)を掲載します。

最も印象に残ったのは、出撃前に記した隊員の手紙である。特攻隊員の多くは20歳前後の若者で、手紙には家族への感謝の思いなどが綴られていた。展示されていた手紙や特攻隊員の遺影を見て、特攻隊員の出撃前の気持ちを想うと、胸が締め付けられる思いがした。

平和会館の横に、1993(平成5)年に連合鳥取が寄進した石灯籠があった。諸先輩方の思いを、現役世代の私たちが「連合鳥取の平和運動」として継承していく決意を改めて固めた。

【寄稿 安藤光平執行委員(電力総連)】



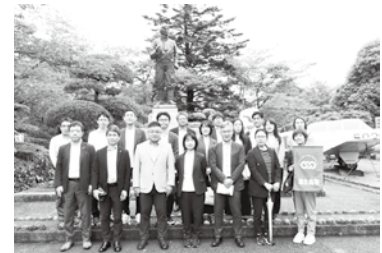
平和会館/零式戦闘機を見学



フィールドワークの様子/  
復元された一式戦闘機「隼」



連合鳥取が寄進した石灯籠



特攻勇士の像「とこしえに」の前で

展示されている御遺書からは「国家・天皇のため」というよりは、「自分の家族を守るために命を賭して戦う」という気持ちの方が大きく感じられた。御遺影を拝見しているうちに、「私たちは大切なものを守るために命を懸けて戦った。お前は与えられた命を無駄にしていないか」といわれているような気がして、自分の生き方を恥じ、気が引き締まる思いがした。

立場は違えども、「自分の大切なものために一生懸命に頑張る」ということ自体はとても素晴らしく、誇るべきことだと思う。家族のため、そして連合の仲間のため、ひいてはすべての働く者のために私がどう生きるべきかを気づかせてくれた、大変有意義な学習会となった。

【寄稿 堀尾修也執行委員(青年委員会委員長)】

「平和の礎は特攻隊にあり」学習会締め田中会長の言葉。

出撃前夜、毛布をかぶり嗚咽が漏れぬよう泣いていた彼らの心境を想像すると、胸が痛むという言葉では片付けられない。時代さえ違えば人生で一番輝かしい青春真っ盛りであった彼らの尊い命、その上に今日の日本の平和がある事を忘れてはいけない。

【寄稿 小谷くみこ執行委員(女性委員会委員長)】

## Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

## 6月は男女平等月間

### ■要請行動を実施します!

※詳しくはNo.7で報告します

- ①実施日 2023年6月2日(金)
- ②鳥取県へ 「雇用と生活における男女平等に関する要請」
- ③鳥取労働局へ 「雇用における男女平等に関する要請」

### ■第19回連合鳥取男女平等参画学習会

- ①日時 2023年6月10日(土)10時00分~12時00分
- ②場所 ハワイアロハホール 大ホール
- ③内容 ・演劇 「パパがママになる日」/演劇集団「あり」
- ・出演者とのディスカッション
- ・産別取り組み事例報告 JP労組 情報労連

※産別を通じて案内しています

### 女性を対象とする 全国一斉集中労働相談ホットライン

※男性からの相談もOK



相談無料

秘密厳守

携帯・スマホからもOK

男性からの相談もお受けします

フリーダイヤル 0120-154-052

相談無料  
秘密厳守  
携帯・スマホOK

あなたのまわりで悩んでいる人に紹介ください

## 連合中国ブロック 「北海道胆振東部地震 防災研修／ ～記憶の伝承～9.6を忘れない」に参加

5月11日(木)、連合中国ブロックの会長・事務局長による「北海道胆振東部地震視察研修」として、北海道で初めて震度7を観測した「厚真町」を視察しました。

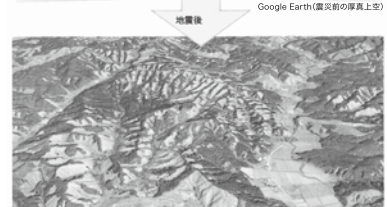
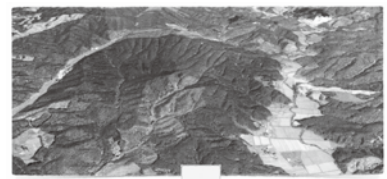
2018年9月6日午前3時7分に発生した「北海道胆振東部地震」は、地震に伴う大規模な土砂災害による道路・河川や電線の寸断、完成したばかりの浄水場が土砂の直撃を受けるなど、ライフラインへの被害が顕著でした。

被災地ガイドの厚真町観光協会のスタッフによれば、電気は9月7日から8日に日付が変わる深夜に復旧し、発災からわずか2日弱での復旧に希望が見えたとの事でした。町内の道路沿いの防災工事は進んでいます、5年経過しようとする今でも、山々の表層1～3mがむき出しとなっています。(写真右参照)

個人所有の山林であるため公費による復旧なく、自然回復に任せている状態なので、広葉樹は生えずエゾ松が少しずつ増えています。また、厚真町では完成したばかりの浄水場が稼働直前に被災しましたが、役目を終えるはずの旧浄水場が稼働できたため、水道の復旧が想定より早くできました。さらに、巨大な厚幌ダムがほぼ完成し、竣工式直前であったため、被災直後の点検で異常がなく、水量調整が可能となったことも土砂せき止めによる水害を防げました。不幸中の幸いです。

自然災害を完全に防ぐことはできません。また災害発生から3日を過ぎると生存率が著しく下がるといわれています。被災した時にまず生命を守り、生活を安定させる。さらにライフラインを復旧するために働く仲間も被災者であることに思いをはせ、災害への備えを見直す機会となりました。

厚真町の被害の特徴



Google Earth(震災後の厚真町上空)

3町で発生した斜面崩壊は6,000箇所以上にのぼりました。

震源に近い厚真町、安平町、むかわ町では、この地震によって多くの山林や建物等が被害を受けた。北海道で初めて震度7を観測した厚真町では、地震に伴って発生した大規模な土砂災害等によって37人(災害関連死1人を含む)の尊い命が失われた。

## 中部地協発／ からだで環境問題を考えた！ -今年も「北条海岸清掃」活動を実施-

中部地域協議会は、社会貢献活動である「北条海岸清掃」活動を5月13日(土)に実施し、子どもたちを含む65人もの組合員のみなさんの参加がありました。

この活動は、2015年、2016年の「東郷池一斉清掃」への参加に続き、2017年からは中部地協独自の取り組みとしての「北条海岸清掃」活動に変更し、その後毎年、「自然環境保全活動」と「顔の見える地協活動」を兼ねて行っているものです。

開催にあたり、盛山修議長が「環境保全の取り組みに対する意義と参加者へのお礼」を述べ、続いて、湯原俊二衆議院議員から「経済活動が環境に与える影響を身体で実感する大切さ」の話をいただき、早速、清掃活動に入りました。

心配された雨も降らず、薄曇りの程よい天気の中で清掃活動ができました。熱心な取り組みにより1時間足らずで70L入りのゴミ袋で燃えるゴミ21袋、燃えないゴミ2袋、ゴミ袋に入らない大型ゴミ3点が回収されました。回収されたゴミの多くは、昨年同様に海洋環境の問題になっているペットボトルや発泡スチロールなどでした。

風で押し上げられたゴミはこうして回収できますが、海にそのまま沈んでいくゴミも相当量あることが想像されます。一人ひとりの自覚が大切だと感じました。



湯原俊二衆議院議員、伊藤保県議員、興治英夫県議員、福井康夫倉吉市議員、養原美百合北米町議員も参加

## 青年委員会発／ 鳥取砂丘の“緑化”を防げ！ -「列島クリーンキャンペーン」で除草作業を実施-

青年委員会は、5月13日(土)、鳥取砂丘において「列島クリーンキャンペーン」を開催しました。コロナ禍の影響で約3年ぶりの開催となりましたが、39人もの参加があり、とても活気ある活動となりました。

今回の列島クリーンキャンペーンは、はじめに鳥取砂丘(オアシス付近)で除草をし、除草後、砂の美術館へ移動して砂像を見学する日程としました。

当日は途中小雨が降りましたが、全体的に作業しやすい天候で、鳥取砂丘の景観を楽しみながら除草することができました。

今回は参加人数が多く、色々な産別の人と一緒に協力しながら鳥取の一大観光名所である鳥取砂丘を綺麗にできたのではないかと考えています。

また、砂の美術館では「エジプト展」を開催しており、砂の彫刻の凄さを改めて感じる事ができました。

今後も行事を通して、青年委員会に属するみなさんの団結を深めていきたいと思いますので、引き続き青年委員会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

(寄稿／青年委員会副委員長 安養寺悠真さん)



# 連合鳥取「推薦議員団会議」でより一層の連携を確認!

5月15日(月)、白兎会館に連合鳥取四役(会長・副会長・事務局長・副事務局長)と推薦議員が集い、「推薦議員団会議」を開催しました。

田中穂会長が「ボトムアップ型の取り組みを連携して行っていこう」とあいさつした後、湯原俊二衆議院議員から国会で議論されている「入管法」、「子ども支援」や「AI問題」などの情勢について報告がありました。

続いて、連合鳥取から推薦議員に向けて、「次期衆議院議員選挙がいつ



あっても対応できるように、街宣活動、辻立ち、ポスティングなどに積極的に連携して取り組んでいくべき」と提起し、全員で確認しました。

## 連合鳥取推薦議員団会議



## “ザ・議員”

### かつた せんじ 勝田 鮮二 鳥取市議会議員

令和5年2月定例会・一般質問で、「循環型社会の取り組みについて」、「マイナンバーカードに関連して」の2項目について質問しました。

※「循環型社会の取り組み」について報告します。

【質問】「循環型社会」とは、限りある資源を効率的に利用し、リサイクルなどで循環させながら、将来にわたって持続して使い続けていく社会のこと。以前は、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会で、その結果、あらゆるものの生産に、必要な資源が枯渇し、廃棄物による環境破壊が進み、ごみを処理する場所も不足している。そこで、循環型社会の実現を掲げる鳥取市として、資源となる廃食用油の回収を主体的に取り組み、市民・行政・事業者が一体となって進めていくことが、とても重要と考える。市長、執行部に見解を尋ねる。

#### 【市長答弁】

分別回収としては実施していないが、市内事業者によって拠点回収をしている。市役所駅南庁舎や市内17カ所の地区公民館にて、回収ボックスの設置を許可しており、回収された廃食用油は県外の加工業者により、家畜用飼料の脂肪成分などにリサイクルしている。



### あだち たかし 安達 卓是 米子市議会議員

高齢化が進むと買い物困難者が増えて、日常生活の中で大変苦勞されていることを目の当たりにします。町内を走る路線バスについても、以前は沿線が開業していた町医者がなくなり困った。一方では、商業施設や介護サービス等の施設ができてきた。そこで、新たにバスの利便性を考えてもらいたい一念で、バス利用の仕方やバス停の位置変更などについて、どのように将来見通しを立てているか問った。

総合政策部長は、「バス停については事業者が地元との協議のうえで設置する。地域の意見を聞き、位置の変更など移設の検討をしている。事業者との調整を図り、キャッシュレス決済の導入についても重要で、県など関係者と連携していく」と答えた。



右写真について/  
地域のボランティアに  
参加し始めて約15年間。  
「松守り隊」では、植栽・  
整備などをやっている。

最近私は言葉というの  
不思議で面白いとつくづく  
思う▼ある日、妹から「それ  
とって」といわれ、私は「こ  
れ?」と返す。「ちがう、そ  
れ」これ?あれ?どれ?」  
「何それラップ歌って  
の?」という会話をしたこ  
とがある。韻を踏んでいた  
のでつい早口でリズムカ  
ルに返事をしてしまった▼そ  
れから言葉に着目するよう  
になり、まずダジャレが浮  
かんた。鳥取県の平井知事  
の有名な「スタバはないが日  
本一のスタバがある」。これ  
は鳥取県民なら一度は耳に  
したことがあるはず。前置き  
で自虐を入れているが、しつ  
かりと観光地をPRしてい  
て印象が強く、頭に残りやす  
いフレーズで、私は気に入っ  
ている。今では鳥取県に4店  
舗スタバが建てられ、期間限  
定メニューを扱うのが月一  
の楽しみになっている▼一  
文字変えるだけでインパク  
トあるメッセージを伝えら  
れる。暗いイメージを明る  
いイメージに変えることがで  
きる。コロナが落ち着き、人  
をとるのがますます  
す楽しみな今日  
この頃。  
(よががえる)

## てんてんてんてん

